

令和6年度
情報公開資料



学校法人伊東学園
テクノ・ホルティ園芸専門学校

① 学校の概要、目標および計画

●学校の教育・人材養成の目標および教育指導計画、経営方針、特色

建学の精神

若い人たちの夢や希望の実現を手伝うこと

そのために多くの挑戦や失敗を恐れずに経験させ、そこから何らかを学び取ることで感性を磨き、ひいては自信と誇りを持って豊かな社会づくりに貢献できる人材を養成する

教育方針

- ・園芸業界の即戦力、その道のプロフェッショナルとして力を発揮できる人材を養成する
- ・栽培から流通・販売まで、また造園やデザインなども含めてバランスの取れた専門教育を行う
- ・理論の学習だけでなく、実習を通して技術の習熟を図る
- ・多方面に関連する園芸業界の状況に対応できるように、関連分野の教育も行う
- ・発展し変化する園芸業界の現状をふまえて、柔軟に対応できる人材を養成する
- ・社会人にふさわしいマナーや人間性を養成する
- ・若い人の持つ夢や目標を大切にし、その可能性を引き出して育てる教育を行う
- ・就職を共に考え、卒業後は同窓会組織などを通じて応援する

●校長名、所在地、連絡先等

法人名 学校法人伊東学園

校長 伊東政信

所在地 埼玉県行田市埼玉 4758 番地 1 (〒361-0025)

連絡先 電話 048-559-1187 Fax 048-559-1189

メール saitama-th@ito.ac.jp

ホームページ www.ito.ac.jp

●学校の沿革、歴史、学生の出展・受賞歴

1952	昭和27	学園の前身である神田予備校創立(東京都知事認可・各種学校)
1974	49	学校法人の認可を受け学校法人伊東学園を創立
1988	63	テクノ・ホルティ園芸専門学校開校(埼玉県知事認可・専修学校、昼間部、2年制、学年定員80名)
1989	平成1	文部省より職業教育高度化開発研究事業の委託を受ける(3年間) 文部省主催、全国農業高等学校長協会の委託により高等学校産業教育実技講習会を実施 映画「千利休」(勅使河原宏監督)のために原種のアサガオを提供
1990	2	学年定員を110名に学則変更 国際花と緑の博覧会に「花と動物たちのふるさと」を出展。優秀賞・金賞を受賞 埼玉県知事 畑和氏が視察のために来校
1992	4	ジャパン フラワー フェスティバルに出展。金賞を受賞 全国造園建設業協会主催の全国デザインコンクールに2名入選 文部省より職業教育高度化開発研究事業の委託を受ける(2回目、3年間)
1996	8	(社)園芸文化協会主催文化展にコンテナガーデンを出展。文部大臣賞を受賞 農林水産省の委託により就農準備教育を実施(平成15年まで)
1997	9	3年制課程スタート(園芸2類学科、昼間部、3年制、学年定員40名) / 第二校舎完成 アメリカ・フィラデルフィア・フラワー・ショーに日本庭園を出展。銀賞を受賞 文部省より、職業教育高度化開発研究事業の委託を受ける 造園CADシステムの操作、造園用小型土木機械操作、熱帯植物栽培マニュアルの研究を行う 同じく、職業人再教育推進事業の委託を受ける ガーデナー養成講座を実施。新植木職・ガーデナー養成マニュアルを作成 高校生フラワーデザイン・園芸装飾コンテストを開催(平成19年まで)
1998	10	東京テクノ・ホルティ園芸専門学校開校(東京・御茶ノ水) 技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において銀賞1を受賞(栃木大会) (社)日本家庭園芸普及協会より出展作品に関する感謝状を受領
1999	11	タイ国ラヨン県に熱帯植物栽培実習センターを開所 技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において金賞1・銀賞1・銅賞1、敢闘賞2を受賞(静岡大会) 労働省委託 失業者を対象とした職業訓練を実施(平成14年まで) 文部省の委託によりチャイルドスクールを実施(以降、自主開催を含めて平成22年まで実施) (社)日本フラワーデザイナー協会より資格試験の普及に関する感謝状を受領
2000	12	タイ国文部省よりラヨン熱帯植物栽培学校が設置認可を受ける 技能五輪全国大会・造園部門において銀賞2、フラワー装飾部門において銅賞1、敢闘賞3を受賞(埼玉大会)
2001	13	技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において銀賞1、銅賞1、敢闘賞2を受賞(福島大会) 静岡国際園芸博覧会に出展。最優秀賞、優秀賞を受賞 ジャパン フラワー フェスティバル(JFF)・フラワーアレンジ部門に出展。金賞を受賞 ジャパン ガーデニング フェアに出展。優秀賞を受賞
2002	14	世界らん展日本大賞 フラワーデザイン審査部門ブーケの部に出展。優秀賞を受賞 技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において銅賞1を受賞(熊本大会) 花園フラワーショーにコンテナガーデン他を出品。金賞、銀賞他計6つの賞を受賞 JFF金賞受賞者が国際園芸博覧会の日本政府出展会場にオリジナル作品を展示 文部科学省委託 産学連携による専修学校高度職業人育成総合プロジェクトを実施 同じく、専修学校キャリアアップ教育推進事業を実施
2003	15	技能五輪全国大会・造園部門において敢闘賞2、フラワー装飾部門において敢闘賞1を受賞(新潟大会) 全国造園デザインコンクール大学生の部 作品・実習部門で入選1、児童公園部門で佳作1を受賞 花園フラワーショーのフラワー装飾、インドアグリーン、造園、コンテナガーデン各部門で金賞、銀賞、銅賞他を受賞 (社)全国学校農場協会主催の農業実験実習講習会を実施(フラワーデザイン、園芸療法) 文部科学省委託 専修学校先進的教育研究開発事業、キャリアアップ教育推進事業を実施 農林水産省の委託により新JUTターン就農促進対策事業を実施 中央職業能力開発協会より職業能力開発に関する感謝状を受領

2004	平成16	技能五輪全国大会・造園部門において敢闘賞1(2人ペア)、フラワー装飾部門において敢闘賞1を受賞(岩手大会) 埼玉県知事上田清司氏より屋上緑化フェアの協力に関する感謝状を受領 同じく、彩の国5つのふれあい県民運動への取り組みに関する表彰状を受領
2005	17	ウイム・ハゼラー・トロフィーを開催 技能五輪全国大会・造園部門において敢闘賞1を受賞(山口大会) 花壇フラワーショーのフラワー装飾、インドアグリーン、造園、コンテナガーデン各部門でグランプリ、金賞、銀賞、銅賞他を受賞 厚生労働大臣より技能検定への協力に関する感謝状を受領
2006	18	園芸文化協会との協業により実戦園芸塾を開講 日比谷公園園ガーデニングショー・ペランダガーデン部門に出品。金賞、来場者人気投票1位を受賞
2007	19	ジャパン フラワー フェスティバルに出品。金賞を受賞 埼玉県知事上田清司氏が視察のために来校
2009	21	厚生労働省が提唱する失業者のための職業訓練を実施(平成27年度まで) 農林水産省の委託により就農準備教育を実施(最終年)
2010	22	世界らん展日本大賞 フラワーデザイン審査部門に出席。トロフィー賞を受賞 技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において銀賞1を受賞(神奈川大会) 文花祭に行田市教育委員会の後援を得る(以降、毎年) 関東商工会議所連合会よりベストアクション表彰を受領
2011	23	東日本大地震が発生。行田市主催のボランティアに計4回参加 技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において敢闘賞2つを受賞(静岡大会)
2013	25	技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において銀賞2、敢闘賞1を受賞(千葉大会) 全国障害者技能競技大会(アビリンピック)・フラワーデザイン部門で金賞1を受賞 深谷花フェスタ・コンテナガーデン部門で最優秀賞を受賞
2014	26	技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において金賞1、銀賞1、敢闘賞1を受賞(愛知大会) 深谷花フェスタ・コンテナガーデン部門で最優秀賞・埼玉県知事賞を受賞 埼玉県の委託により小学生対象のフラワーデザイン教室「夢のかけ橋」を実施(以降、毎年)
2015	27	第43回技能五輪国際大会World Skills Floristry Sao Pauloへ埼玉校研修生が出場 フラワーデザインの花材用テキストとして「花屋さんの花事典」(ナツメ社)を監修・出版
2016	28	技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において銀賞1、敢闘賞2を受賞(山形大会) 深谷花フェスタ・コンテナガーデン部門で最優秀賞・深谷市長賞を受賞
2017	29	技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において銀賞1、銅賞1、敢闘賞1を受賞(栃木大会) 埼玉県職業能力開発協会より技能五輪全国大会への協力に関する感謝状を受領 全国農業会議所より農業次世代人材投資事業(準備型)の全国教育機関として認定される 農業次世代人材投資事業に応募した6名全員への交付が決定
2018	30	開校30周年記念同窓会を開催し、約500名の卒業生が来場 技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において金賞1、銀賞1を受賞(沖縄大会) 金賞受賞者は、技能五輪国際大会(2019年8月ロシア・カザン)に出場予定 職業実践専門課程の認定を受ける(園芸1類学科)
2019	31	農業における生産工程管理(埼玉県版 S-GAP)の認証を受ける(栽培品目コマツナ)
令和1		行田市のオープンガーデンに初参加 第45回技能五輪国際大会World Skills Floristry Russia Kazan大会へ埼玉校卒業生が出場 高等教育の修学支援新制度(高等教育無償化)に認定される
2020	2	専門実践教育訓練給付金の講座指定を受ける(全コース) 新型コロナウイルス感染症対策として、入学式の延期や授業開始時刻の変更、各種行事の変更などを行う
2021	3	コロナ感染症対策を万全にして、卒業作品展、卒業式を実施する 技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において銀賞を受賞(東京大会)
2022	4	技能五輪全国大会・フラワー装飾部門において銅賞を受賞(千葉大会)

② 各学科（コース）等の教育

●入学者に関する受入れ方針および入学者数、収容定員、在学学生数

次に例示する素養を持った人物を、募集要項に基づいて募集している。

（この際、出願前に来校するなどして、本校に対する理解を深めることを求めている）

- ・花や緑の持つ素晴らしさを楽しむことができる人
- ・花と緑の素晴らしさを人々に知らせることを望む人
- ・花と緑を使って人に安らぎや癒しを与えることを望む人 など

農業専門課程、園芸1類学科、2年制課程

募集定員：80名

収容定員：160名

学科・コース・専攻	令和5年度		令和5年度			令和3年度		
	入学	在籍	入学	在籍	退学	入学	在籍	退学
園芸1類学科	62名		55名			59名		
花き生産コース		12名		15名	1名		13名	1名
野菜生産コース		20名		23名	2名		21名	1名
グリーンコーディネートコース		17名		17名			19名	
フラワーコーディネートコース		45名		42名	6名		36名	2名
造園コース		17名		17名			16名	

在籍者数は各年度5月1日時点。

但し、コースへ所属する時期は1年次の後期からであるため、入学時の希望による。

退学者数は、学年を問わず年度を通じて退学した人数を記し、前期に退学した者はコースでの退学者として記していない。

●カリキュラム

教育目標（育て上げようとする人物像）

- ・企業から喜んで迎え入れてもらえる人材
- ・花と緑を通じて人に豊かな気持ちや安らぎ、心地良い環境を提供できる即戦力たる人材
- ・働くことに夢と誇り、やりがいを感じることでできる人材
- ・常に向上心と自らの目標に関する事柄に興味・関心を持ち、創意工夫と努力を怠らない人材
- ・将来のオーナーやデザイナー、第一線で活躍を目指そうとする人材

<カリキュラム・科目表>

授業科目等の概要

（農業専門課程 園芸1類学科 花き生産コース）令和6年度										
分類	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法		場所	教員	企業等との連携	実務経験のある教員
					講義	演習				
○	園芸文化論	高次と日本の園芸を題材とした歴史、生活文化について学習する。	1前	30	1	○	○	○	○	○
○	花と緑の食品知識Ⅰ	鉢花、切花、観木といった園芸や造園に利用する素材について、名称・管理方法などについて学習する。	1通	60	2	○	○	○	○	○
○	花と緑の食品知識Ⅱ	鉢花、切花、観木といった園芸や造園に利用する素材について、名称・管理方法などについて学習する。	2前	30	1	○	○	○	○	○
○	分類・形態学	園芸植物の分類や形態について基本的に学習する。	1前	15	0.5	○	○	○	○	○
○	分類・形態各論	園芸植物の分類や形態について応用的に学習する。	1後	15	0.5	○	△	○	○	○
○	土壌肥科学	土壌や肥料の基礎や土壌改良法、施肥法などについて学習する。	1前	15	0.5	○	△	○	○	○
○	土壌肥料各論	花き生産における土壌、肥料、施肥などについて学習する。	1通	15	0.5	○	○	○	○	○
○	病理害虫学	植物に関わる病気、害虫、その対処法などについて学習する。	1前	15	0.5	○	○	○	○	○
○	病理害虫各論	花き生産における病害虫、その対処法などについて学習する。	1前	15	0.5	○	○	○	○	○
○	植物生理学	植物ホルモンや光形態形成などを学習する。	1前	15	0.5	○	△	○	○	○
○	園芸実習Ⅰ	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	1通	120	4	△	○	○	○	○
○	園芸実習Ⅱ	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	2前	30	1	△	○	○	○	○
○	育種・繁殖	植物の育種や繁殖・管理方法、バイオテクノロジーの基礎について学習する。	1前	30	1	○	△	○	○	○
○	グリーンコーディネーター	観葉植物の扱いやそれらを用いた装飾法について学習する。	1前	30	1	△	○	○	○	○
○	ビジネススマナー	社会人として必要なビジネススマナーや履歴書の書き方、社会人基礎力等を習得する。	1通	45	1.5	○	△	○	○	○
○	園芸流通	園芸業界の現状や実際の例に触れながら学習する。	1前	30	1	○	○	○	○	○
○	デザイン	デザインの構成について学習し、図面上での造形について理解させる。	1前	30	1	○	△	○	○	○
○	フラワーデザイン基礎	フラワーデザインの基礎を学習する。	1前	30	1	△	○	○	○	○
○	カラーコーディネーター	色彩に関する基本的な知識や配色技法を学習する。	1前	15	0.5	○	△	○	○	○
○	造園基礎	造園史、日本庭園、西洋庭園の様式や特徴、造園材料や観察を通じて緑地の知識などを習得する。	1前	30	1	△	○	○	○	○
○	花き園芸基礎	寄せ植え、花壇作成、基本的な農機具の扱いなど様々な園芸作業を学習する。	1前	60	2	△	○	○	○	○
○	花き生産技術Ⅰ	花き生産の基礎から応用を学習する。	1後	60	2	△	○	○	○	○
○	花き生産技術Ⅱ	花き生産の基礎から応用を学習する。	2通	240	8	△	○	○	○	○
○	商品制作Ⅰ	植物を使用した商品の制作について学習する。	1後	15	0.5	△	○	○	○	○
○	商品制作Ⅱ	植物を使用した商品の制作について学習する。	2通	30	1	△	○	○	○	○
○	生産販売流通Ⅰ	生産物の出荷、流通の仕組みを学習する。	1後	30	1	△	○	○	○	○
○	生産販売流通Ⅱ	生産物の出荷、流通の仕組みを学習する。	2通	60	2	△	○	○	○	○
○	施設管理Ⅰ	温室などの農物の施設設備の管理技術を学習する。	1後	15	0.5	△	○	○	○	○
○	施設管理Ⅱ	温室などの農物の施設設備の管理技術を学習する。	2通	60	2	△	○	○	○	○
○	花き育種・繁殖Ⅰ	花きについての品種改良や育種、繁殖技術について学習する。	1後	30	1	○	△	○	○	○
○	花き育種・繁殖Ⅱ	花きについての品種改良や育種、繁殖技術について学習する。	2通	60	2	○	△	○	○	○
○	生育・開花観察実践	花き生産における開花観察の手法を学習する。	2通	30	1	○	△	○	○	○
○	農業機械Ⅰ	トラクターや動力噴霧器などの農業機械の扱いについて学習する。	1後	15	0.5	△	○	○	○	○
○	農業機械Ⅱ	トラクターや動力噴霧器などの農業機械の扱いについて学習する。	2通	30	1	△	○	○	○	○
○	マーケティングⅠ	農業や園芸にかかわるマーケティングの手法について学習する。	1前	30	1	○	△	○	○	○
○	マーケティングⅡ	農業や園芸にかかわるマーケティングの手法について学習する。	2前	30	1	○	△	○	○	○
○	農業簿記Ⅰ	農業簿記の基本的な知識を学習し、農業簿記検定3級の受験を目指す。	1通	30	1	○	△	○	○	○
○	農業簿記Ⅱ	農業簿記検定2級の受験を目指す。	2通	30	1	○	△	○	○	○
○	花き輸出入概論	花きの輸出入に関する基本的な知識を学習する。	2通	30	1	○	△	○	○	○
○	卒業研究	各自がテーマを設定し、一定期間計画的に調査・研究し、自己の専門性を高めるとともに、物事を客観的・論理的に説明する力を習得させる。また、調査・研究の過程において文献・資料の収集力・分析力を養う。	2通	180	6	△	○	○	○	○
○	インターンシップ	園芸業界での現場体験を行う。	1後 2通	60 60	2 2	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○
○	管理実習	夏季休業中などに校内の植物の管理作業を行う。	1通 2通	60 60	2 2	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○
○	校内行事	文化祭などの校内行事への取り組みを通じて、計画から完成までの一連の流れを習得する。	1通 2通	120 120	4 4	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○
○	選択	希望に応じて生け花、盆栽、剪定などから選択する。	1後 2後	30 30	1 1	△ △	○ ○	○ ○	○ ○	△ △
○	資格取得	園芸装飾技師士、造園技師士、フラワー装飾技師士、商品装飾装飾士など、希望する資格に応じ選択し、資格試験を受験する上で必要な知識、技術を習得する。	1通 2通	120 120	4 4	△ △	△ △	○ ○	○ ○	△ △
合 計				2460	82					
内、実務経験のある教員による授業科目の時間数、単位数（他1、授業科目も『選択』『資格取得』を除く）				1725	57.5					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
各学期毎に履修した科目について定期試験を実施する。定期試験において合格すると単位認定される。必修科目は全て、選択必修科目は年次ごとに所定の単位数以上認定され、1年次では1,230単位時間以上、2年次では1,230単位時間以上（2年間で2,460単位時間以上）認定されることが卒業要件となる。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

授業科目等の概要

(農業専門課程 園芸1類学科 野菜生産コース) 令和6年度															
分類	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法		場所		教員		実 務 経 験 の あ る 教 員 等 の 運 携
									講 義	演 習	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○				園芸文化論	西欧と日本の園芸を媒体とした歴史、生活文化について学習する。	1前	30	1	○		○		○		○
○				野菜生産各論Ⅰ	各種野菜の分類、作型、栽培、管理方法について学習する。	1通	60	2	○	△	○	○	○		○
○				野菜生産各論Ⅱ	各種野菜の分類、作型、栽培、管理方法について学習する。	2前	30	1	○	△	○	○	○		○
○				分類・形態学	園芸植物の分類や形態について学習する。	1前	15	0.5	○		○		○		○
○				土壌肥料学	土壌や肥料の基礎や土壌改良法、施肥法などについて学習する。	1前	15	0.5	○	△	○		○		○
○				土壌肥料各論	野菜生産における土壌、肥料、施肥などについて学習する。	1通	15	0.5	○	△	○		○		○
○				病理害虫学	植物に関わる病気、害虫、その対処法などについて学習する。	1前	15	0.5	○		○		○		○
○				病理害虫各論	野菜生産における病害虫、その対処法などについて学習する。	1前	15	0.5	○		○		○		○
○				植物生理学	植物ホルモンや光形態形成などを学習する。	1前	15	0.5	○	△	○		○		○
○				園芸実習Ⅰ	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	1通	120	4	△	○	○	○	○		○
○				園芸実習Ⅱ	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	2前	30	1	△	○	○	○	○		○
○				育種・繁殖	植物の育種や繁殖・管理方法、バイオテクノロジーの基礎について学習する。	1前	30	1	○	△	○		○		○
○				グリーンコーディネート	観葉植物の扱いやそれらを用いた装飾法について学習する。	1前	30	1	△	○	○		○	○	○
○				ビジネスマナー	社会人として必要なビジネスマナーや履歴書の書き方、社会人基礎力等を習得する。	1通	45	1.5	○	△			○		○
○				園芸流通	園芸業界の現状を実際の例に触れながら学習する。	1前	30	1	○		○		○		○
○				デザイン	デザインの構成について学習し、図面上での造形について理解させる。	1前	30	1	○	△			○		○
○				フラワーデザイン基礎	フラワーデザインの基礎を学習する。	1前	30	1	△	○	○		○		○
○				カラーコーディネート	色彩に関する基本的な知識や配色技法を学習する。	1前	15	0.5	○	△			○		○
○				造園基礎	造園史、日本造園、西洋造園の様式や特徴、造園材料や園路を通じて造木の知識などを習得する。	1前	30	1	△	○	○		○		○
○				野菜生産技術Ⅰ	野菜生産の基礎から応用を学習する。	1通	135	4.5	△	○	○		○		○
○				野菜生産技術Ⅱ	野菜生産の基礎から応用を学習する。	2通	240	8	△	○	○		○		○
○				次世代農業Ⅰ	植物工場などの次世代農業について学習する。	1後	30	1	○	△	○		○		○
○				次世代農業Ⅱ	植物工場などの次世代農業について学習する。	2前	30	1	○	△	○		○		○
○				販売技術Ⅰ	野菜の販売を行う上での調整、販売方法を学習する。	1後	15	0.5	△	○	○		○		○
○				販売技術Ⅱ	野菜の販売を行う上での調整、販売方法を学習する。	2後	45	1.5	△	○	○		○		○
○				野菜育種・繁殖Ⅰ	野菜についての品種動向や育種、繁殖技術について学習する。	1後	15	0.5	△	○	○		○		○
○				野菜育種・繁殖Ⅱ	野菜についての品種動向や育種、繁殖技術について学習する。	2前	45	1.5	△	○	○		○		○
○				食品加工論Ⅰ	安全衛生を含めた野菜の加工方法について学習する。	1後	15	0.5	○		○		○		○
○				食品加工論Ⅱ	安全衛生を含めた野菜の加工方法について学習する。	2後	15	0.5	○		○		○		○
○				加工実習Ⅰ	漬物や干し野菜などの加工や野菜の特性を活かした調理方法を学習する。	1後	15	0.5	△	○	○		○		○
○				加工実習Ⅱ	漬物や干し野菜などの加工や野菜の特性を活かした調理方法を学習する。	2後	15	0.5	△	○	○		○		○
○				農業機械Ⅰ	トラクターや動力噴霧器などの農業機械の扱いについて学習する。	1後	15	0.5	△	○	○	○	○		○
○				農業機械Ⅱ	トラクターや動力噴霧器などの農業機械の扱いについて学習する。	2通	45	1.5	△	○	○	○	○		○
○				野菜栄養学	野菜の栄養価について学習する。	2後	15	0.5	○		○		○		○
○				施設管理	温室などの農場の施設設備の管理技術を学習する。	2前	30	1	△	○	○		○		○
○				野菜栽培指導法	園芸教室や家庭菜園、市民農園などでの指導法について学習する。	2後	15	0.5	○	△	○		○		○
○				有機農法概論	有機農法の基本的な知識を学習する。	2前	30	1	○	△	○		○		○
○				マーケティングⅠ	農産や園芸にかかわるマーケティングの手法について学習する。	1前	30	1	○	△		○	△		○
○				マーケティングⅡ	農産や園芸にかかわるマーケティングの手法について学習する。	2前	30	1	○	△		○	△		○
○				農業簿記Ⅰ	農業簿記の基本的な知識を学習し、農業簿記検定3級の受験を目指す。	1通	30	1	○	△	○		○		○
○				農業簿記Ⅱ	農業簿記検定2級の受験を目指す。	2通	30	1	○	△	○		○		○
○				農業英語	農産や園芸に関わる専門的な英語を学習する。	2後	15	0.5	○	△	○		○		○
○				卒業研究	各自がテーマを設定し、一定期間計画的に調査・研究し、自己の専門性を高めるとともに、他事を客観的・論理的に展開する力を習得させる。また、調査・研究の過程において文献・資料の収集力、分析力を養う。	2通	180	6	△	○	△		○		○
○				インターンシップ	園芸業界での現場体験を行う。	1後	60	2			○		○		○
						2通	60	2			○		○		○
○				管理実習	夏季休業中などに校内の植物の管理作業を行う。	1通	60	2			○		○		○
						2通	60	2			○		○		○
○				校内行事	文化祭などの校内行事への取り組みを通じて、計画から完成までの一連の流れを習得する。	1通	120	4			○		○		○
						2通	120	4			○		○		○
	○			選択	希望に応じて生花、盆栽、野菜などから選択する。	1後	30	1	△		○		○		△
						2後	30	1	△		○		○		△
○				資格取得	園芸装飾技術士、造園技術士、フラワー装飾技術士、商品装飾展示技術士など、希望する資格に応じ選択し、資格試験を受験する上で必要な知識、技術を習得する。	1通	120	4	△	△	○		○		△
						2通	120	4	△	△	○		○		△
合 計							2460	82							
内、実務経験のある教員による授業科目の時間数、単位数 (但し、授業科目は『選択』『資格取得』を除く)							1725	57.5							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
各学期毎に履修した科目について定期試験を実施する。定期試験において合格すると単位認定される。必修科目は全て、選択必修科目は年次ごとに所定の単位時間以上認定され、1年次では1,230単位時間以上、2年次では1,230単位時間以上(2年間で2,460単位時間以上)認定されることが卒業要件となる。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

授業科目等の概要

（農業専門課程 園芸1類学科 グリーンコーディネートコース）令和6年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	実務経験のある教員
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
				園芸文化論	西欧と日本の園芸を媒体とした歴史、生活文化について学習する。	1前	30	1	○		○		○			
				花と鉢の商品知識Ⅰ	鉢花、切花、観木といった園芸や造園に利用する素材について、名称・管理方法などについて学習する。	1通	60	2	○		○		○			
				花と鉢の商品知識Ⅱ	鉢花、切花、観木といった園芸や造園に利用する素材について、名称・管理方法などについて学習する。	2前	30	1	○		○		○			
				分類・形態学	園芸植物の分類や形態について学習する。	1前	15	0.5	○		○		○			
				土壌肥科学	土壌や肥料の基礎や土壌改良法、施肥法などについて学習する。	1前	15	0.5	○	△	○		○			
				病理害虫学	植物に及ぼす病気の発生、害虫、その対策法などについて学習する。	1前	15	0.5	○		○		○			
				植物生理学	植物ホルモンや光形態形成などを学習する。	1前	15	0.5	○	△	○		○			
				園芸実習Ⅰ	花壇作成や観葉の管理方法など農場での実習を行う。	1通	120	4	△	○	○		○			
				園芸実習Ⅱ	花壇作成や観葉の管理方法など農場での実習を行う。	2前	30	1	△	○	○		○			
				育種・繁殖	植物の育種や繁殖・管理方法、バイオテクノロジーの基礎について学習する。	1前	30	1	○	△	○		○			
				グリーンコーディネート	観葉植物の扱いやそれらを用いた造園法について学習する。	1前	30	1	△	○	○		△	○	○	○
				ビジネスマナー	社会人として必要なビジネスマナーや履歴書の書き方、社会人基礎力等を習得する。	1通	45	1.5	○	△			○			
				園芸流通	園芸業界の現状を実際の例に触れながら学習する。	1前	30	1	○		○		○			
				デザイン	デザインの構成について学習し、図面上での造形について理解させる。	1前	30	1	○	△			○			
				フラワーデザイン基礎	フラワーデザインの基礎を学習する。	1前	30	1	△		○		○			
				カラーコーディネート	色彩に関する基本的な知識や配色技法を学習する。	1前	15	0.5	○	△			○			
				造園基礎	造園史、日本庭園、西洋庭園の様式や特徴、造園材料や職業を通じて造木の知識などを習得する。	1前	30	1	△		○		○			
				植物管理技術Ⅰ	校内で管理している見本植物を用いて、分類や管理のポイントを学習する。	1通	60	2	△		○		○			
				植物管理技術Ⅱ	校内で管理している見本植物を用いて、分類別に維持管理と繁殖等を行う。	2通	90	3	△		○		○			
				施設管理Ⅰ	植物の適切な管理を行うための温室や施設の環境整備を行う。	1後	30	1	△		○		○			
				施設管理Ⅱ	植物の適切な管理を行うための温室や施設の環境整備を行う。	2通	60	2	△		○		○			
				グリーンサービス基礎	グリーンサービスに関わる観葉植物の扱いを学習する。	1前	30	1	△		○		○			
				グリーンサービス実習Ⅰ	実習作品の校内、商業施設での展示やコンテストへ出展するための一連の流れを学習する。	1後	120	4	△		○		○			
				グリーンサービス実習Ⅱ	実習作品の校内、商業施設での展示やコンテストへ出展するための一連の流れを学習する。	2通	300	10	△		○		○			
				特殊空間緑化	屋上緑化、屋内緑化、従前緑化の基礎を学習する。	2前	30	1	○	△	○		○			
				ガーデニング	ガーデンの設計や施工、コンテナガーデンやハンギングバスケットの制作を学習する。	2前	30	1	△	△	○		○			
				インテリア商品制作Ⅰ	観葉植物を用いた商品制作やその配装について学習する。	1後	30	1	○	△	○		○			
				インテリア商品制作Ⅱ	観葉植物を用いた商品制作やその配装について学習する。	2前	30	1	○	△	○		○			
				植物販売技術Ⅰ	陳列やPOPなどを中心に販売促進の基礎を学習する。陳列等を営んだ園芸店やガーデンセンターでの販売促進や仕入れから販売までの流れを学習する。	1後	30	1	○	△	○		○			
				植物販売技術Ⅱ	陳列やPOPなどを中心に販売促進の基礎を学習する。陳列等を営んだ園芸店やガーデンセンターでの販売促進や仕入れから販売までの流れを学習する。	2前	30	1	○	△	○		○			
				マーケティングⅠ	農産や園芸にかかわるマーケティングの手法について学習する。	1前	30	1	○	△		○	△			
				マーケティングⅡ	農産や園芸にかかわるマーケティングの手法について学習する。	2前	30	1	○	△		○	△			
				園芸指導技術	園芸講座の計画から運営までを実践的に学習する。	2前	30	1	○	△	○		○			
				卒業研究	各自がテーマを設定し、一定期間計画的に調査・研究し、自己の専門性を高めるとともに、物事を客観的・論理的に展開する力を習得させる。また、調査・研究の過程において文献・資料の収集力・分析力を養う。	2通	150	5	△	○	△		○			
				インターンシップ	園芸業界での現場体験を行う。	1後	60	2			○		○			
				管理実習	夏季休業中などに校内の観葉の管理作業を行う。	1通	60	2			○		○			
				校内行事	文化祭などの校内行事への取り組みを通じて、計画から完成までの一連の流れを習得する。	1通	120	4			○		○			
						2通	120	4			○		○			
				選択	希望に応じて生け花、盆栽、野菜などから選択する。	1後	30	1	△		○		○			△
						2後	30	1	△		○		○			△
				資格取得	園芸技術士、造園技術士、フラワー造園技術士、商品装飾展覧技術士など、希望する資格に応じた選択し、資格試験を受験する上で必要な知識、技術を習得する。	1通	120	4	△	△	○		○			△
						2通	120	4	△	△	○		○			△
合 計							2460	82								
内、実務経験のある教員による授業科目の時間数、単位数（但し、授業科目名『選択』『資格取得』を除く）							1725	57.5								
卒業要件及び履修方法											授業期間等					
各学期毎に履修した科目について定期試験を実施する。定期試験において合格すると単位認定される。必修科目は全て、選択必修科目は年次ごとに所定の単位数以上認定され、1年次では1,230単位数時間以上、2年次では1,230単位数時間以上（2年間で2,460単位数時間以上）認定されることが卒業要件となる。											1学年の学期区分		2期			
											1学期の授業期間		15週			

授業科目等の概要

(農業専門課程 園芸1類学科 フラワーコーディネートコース) 令和6年度														
分類	必修 選択 自由 選択	授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		実 務 経 験 の あ る 教 員
							講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○		園芸文化論	西欧と日本の園芸を媒体とした歴史、生活文化について学習する。	1前	30	1	○			○		○		○
○		花と鉢の商品知識Ⅰ	鉢花、切花、樹木といった園芸や造園に利用する素材について、名称・管理方法などについて学習する。	1通	60	2	○			○		○		○
○		花と鉢の商品知識Ⅱ	鉢花、切花、樹木といった園芸や造園に利用する素材について、名称・管理方法などについて学習する。	2前	30	1	○			○		○		○
○		分類・形態学	園芸植物の分類や形態について学習する。	1前	15	0.5	○			○		○		○
○		土壌肥科学	土壌や肥料の基礎や土壌改良法、施肥法などについて学習する。	1前	15	0.5	○	△	○			○		○
○		病理害虫学	植物に関わる病気、害虫、その対処法などについて学習する。	1前	15	0.5	○			○		○		○
○		植物生理学	植物ホルモンや光形態形成などを学習する。	1前	15	0.5	○	△	○			○		○
○		園芸実習Ⅰ	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	1通	120	4	△	○	○			○		○
○		園芸実習Ⅱ	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	2前	45	1.5	△	○	○			○		○
○		育種・繁殖	植物の育種や繁殖、管理方法、バイオテクノロジーの基礎について学習する。	1前	30	1	○	△	○			○		○
○		グリーンコーディネート	観葉植物の扱いやそれらを用いた装飾法について学習する。	1前	30	1	△	○	○			△	○	○
○		ビジネスマナーⅠ	社会人として必要なビジネスマナーや履歴書の書き方、社会人基礎力等を習得する。	1通	45	1.5	○	△		○		○		○
○		ビジネスマナーⅡ	接客マナー等について学習する。	2前	15	0.5	○	△		○		○		○
○		園芸流通	園芸業界の現状や業務の概観に触れながら学習する。	1前	30	1	○			○		○		○
○		フラワーデザイン基礎	フラワーデザインの基礎を学習する。	1通	120	4	△	○	○			○		○
○		デザイン	デザインの構成について学習し、図案上での造形について理解させる。	1前	30	1	○	△		○		○		○
○		カラーコーディネートⅠ	色彩に関する基本的な知識や配色技法を学習する。	1前	15	0.5	○	△		○		○		○
○		カラーコーディネートⅡ	カラーコーディネートの応用としてアレンジメント等を作成する。	2前	30	1	○	△		○		○		○
○		造園基礎	造園史、日本庭園、言語庭園の様式や特徴、造園材料や観音を通じて樹木の知識などを習得する。	1前	30	1	△	○	○			○		○
○		フラワーデザイン応用	ヨーロッパスタイルなど基礎を基にした様々な作品制作技術を習得する。	2通	180	6	△	○	○			○		○
○		フラワーデザイン実践Ⅰ	いろいろなスタイルのアレンジメントや花束の制作技術を習得する。	1後	60	2	△	○	○			○		○
○		フラワーデザイン実践Ⅱ	イベントや学校外での装飾技術を計画から作成まで一連の流れを通して学習する。	2通	90	3	△	○	○			○		○
○		商品知識Ⅰ	切り花や鉢物の商品知識を学習する。	1通	30	1	△	○	○			○		○
○		商品知識Ⅱ	切り花や鉢物の商品知識を学習する。	2通	45	1.5	△	○	○			○		○
○		ショップビジネスⅠ	店舗運営に関する知識、技術（接客、陳列、接客など）を実習を交えながら習得する。	1通	30	1	△	○	○			○		○
○		ショップビジネスⅡ	店舗運営に関する知識、技術（接客、陳列、接客など）を実習を交えながら習得する。	2通	90	3	△	○	○			○		○
○		商品企画制作Ⅰ	母の日やクリスマスなどイベント時の商品制作について計画から学習する。	1後	15	0.5	△	○	○			○		○
○		商品企画制作Ⅱ	母の日やクリスマスなどイベント時の商品制作について計画から学習する。	2通	120	4	△	○	○			○		○
○		空間装飾Ⅰ	広い空間での植物を使用した装飾技術を習得する。	1後	45	1.5	△	○	○			○		○
○		空間装飾Ⅱ	広い空間での植物を使用した装飾技術を習得する。	2通	120	4	△	○	○			○		○
○		ブライダルフラワーⅠ	ブーケや床立装花などのブライダル関連の商品制作やマナーについて学習する。	1後	30	1	△	○	○			○		○
○		ブライダルフラワーⅡ	ブーケや床立装花などのブライダル関連の商品制作やマナーについて学習する。	2通	45	1.5	△	○	○			○		○
○		フェーラルフラワー	祭壇などの葬儀関連の商品制作やマナーについて学習する。	2前	30	1	△	○	○			○		○
○		ビジネス文書	ビジネス文書作成について学習する。	1通	15	0.5	○	△		○		○		○
○		簿記	簿記の基本的な知識を学習する。	1前	15	0.5	○	△		○		○		○
○		インターンシップ	園芸業界での現場体験を行う。	1後	60	2			○	○		○		○
				2通	60	2			○	○		○		○
○		管理実習	夏季休業中などに校内の植物の管理作業を行う。	1通	60	2			○	○		○		○
				2通	60	2			○	○		○		○
○		校内行事	文化祭などの校内行事への取り組みを通して、計画から完成までの一連の流れを習得する。	1通	120	4			○	○		○		○
				2通	120	4			○	○		○		○
○		選択	希望に応じて生け花、盆栽、野菜などから選択する。	1後	30	1	△	○	○			○		△
				2後	30	1	△	○	○			○		△
○		資格取得	園芸装飾技術士、造園技術士、フラワー装飾技術士、商品装飾展示技術士など、希望する資格に応じ選択し、資格試験を受験する上で必要な知識、技術を習得する。	1通	120	4	△	△	○	○		○		△
				2通	120	4	△	△	○	○		○		△
合 計					2460	82								
内、実務経験のある教員による授業科目の時間数、単位数（但し、授業科目名『選択』『資格取得』を除く）					1710	57								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
各学期毎に履修した科目について定期試験を実施する。定期試験において合格すると単位認定される。必修科目は全て、選択必修科目は年次ごとに所定の単位時間以上認定され、1年次では1,230単位時間以上、2年次では1,230単位時間以上（2年間で2,460単位時間以上）認定されることが卒業要件となる。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

授業科目等の概要

（農業専門課程 園芸1類学科 造園コース）令和6年度															
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法		場所		教員		企業等との連携	実務経験のある教員
								講義	演習	校内	校外	専任	兼任		
○				園芸文化論	西歌と日本の園芸を媒体とした歴史、生活文化について学習する。	1前	30	1	○		○		○		○
○				花と緑の萌生知識Ⅰ	鉢花、切花、苗木といった園芸や造園に利用する素材について、名称・管理方法などについて学習する。	1通	60	2	○		○		○		○
○				花と緑の萌生知識Ⅱ	鉢花、切花、苗木といった園芸や造園に利用する素材について、名称・管理方法などについて学習する。	2前	30	1	○		○		○		○
○				分類・形態学	園芸植物の分類や形態について学習する。	1前	15	0.5	○		○		○		○
○				土壌肥科学	土壌や肥料の基礎や土壌改良法、施肥法などについて学習する。	1前	15	0.5	○	△	○		○		○
○				病理害虫学	植物に関わる病気、害虫、その対処法などについて学習する。	1前	15	0.5	○		○		○		○
○				植物生理学	植物ホルモンや形態形成などを学習する。	1前	15	0.5	○	△	○		○		○
○				園芸実習Ⅰ	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	1通	120	4	△	○	○		○		○
○				園芸実習Ⅱ	花壇作成や植物の管理方法など農場での実習を行う。	2前	30	1	△	○	○		○		○
○				育種・繁殖	植物の育種や繁殖・管理方法、バイオテクノロジーの基礎について学習する。	1前	30	1	○	△	○		○		○
○				グリーンコーディネート	観葉植物の扱いやそれらを用いた装飾法について学習する。	1前	30	1	△	○	○		△	○	○
○				ビジネススマナー	社会人として必要なビジネススマナーや履歴書の書き方、社会人基礎力等を習得する。	1通	45	1.5	○	△			○		○
○				園芸流通	園芸業界の現状や実際の例に就きながら学習する。	1前	30	1	○		○		○		○
○				デザイン	デザインの構成について学習し、園芸上での適用について理解させる。	1前	30	1	○	△			○		○
○				フラワーデザイン基礎	フラワーデザインの基礎を学習する。	1前	30	1	△	○	○		○		○
○				カラーコーディネート	色彩に関する基本的な知識や配色技法を学習する。	1前	15	0.5	○	△			○		○
○				造園基礎知識	造園に関わる基本的な知識を学習する。	1前	30	1	○	△	○		○		○
○				造園基礎技術	造園に関わる基本的な技術を学習する。	1前	30	1	△	○	○		○		○
○				造園概論	造園史、日本造園、西洋造園の様式や特徴、造園材料や観葉を通じて樹木の知識などを習得する。	1前	30	1	○	△			○		○
○				造園計画	図面の描き方、記号の表記方法、道具の使用法、図面の読み取り方法等について学習する。	1後	90	3	○	△	△	○	△		○
○				造園施工Ⅰ	造園施工の基礎から応用までの必要な知識、技術を学習する。	1後	60	2	△	○	○		○		○
○				造園施工Ⅱ	造園施工の基礎から応用までの必要な知識、技術を学習する。	2通	180	6	△	○	○		○		○
○				造園管理Ⅰ	施工を行う上での必要経費の積算方法や、病害虫防除を含めた施工後の造園の管理について学習し、実際に管理実習も行う。	1後	60	2	△	○	○		○		○
○				造園管理Ⅱ	施工を行う上での必要経費の積算方法や、病害虫防除を含めた施工後の造園の管理について学習し、実際に管理実習も行う。	2通	180	6	△	○	○		○		○
○				樹木学Ⅰ	樹木の名称や、特徴、見分け方などを学習する。	1前	30	1	○	△	△		○		○
○				樹木学Ⅱ	樹木の名称や、特徴、見分け方などを学習する。	2前	30	1	○	△	△		○		○
○				装飾技術	寄せ植えなどの装飾物を使用した装飾技術について学習する。	1後	30	1	△	○	○	△	○		○
○				造園設計	図面作成を行いながら、設計について学習する。	2前	60	2	△	△	○	○	△	○	○
○				造園材料	石や砂、竹、芝など造園に必要な材料の知識とそれらの扱いについて学習する。	2後	60	2	△	○	○		○		○
○				環境緑化	都市緑化や生態系など造園に関わる環境や緑化技術について実習や調査を交えながら学習する。	2前	45	1.5	△	○	○	△	○	○	○
○				フィールドワーク	実際に校外での観察を行い、自然環境での生態や生態系について学習する。	2通	45	1.5			○		○		○
○				測量	平板測量やトランシットについて学習する。	2前	60	2	△	△	○		○		○
○				課題学習	造園に関連したイベント、見学場所やそれぞれの進路に応じたテーマを設定し、調査、研究しまとめる。	2通	120	4	△	○	△	○	△	○	○
○				インターンシップ	園芸業界での現場体験を行う。	1後	60	2			○	○		○	○
○				管理実習	夏休実習中などに校内の植物の管理作業を行う。	2通	60	2			○	○		○	○
○						1通	60	2			○	○		○	○
○				校内行事	文化祭などの校内行事への取り組みを通じて、計画から完成までの一連の流れを習得する。	1通	120	4			○	○		○	○
○						2通	120	4			○	○		○	○
○				選択	希望に応じて生け花、盆栽、野菜などから選択する。	1後	30	1	△		○		○		△
○				資格取得	園芸装飾技術士、造園技術士、フラワー装飾技術士、商品装飾展示技術士など、希望する資格に応じて選択し、資格試験を受験する上で必要な知識、技術を習得する。	1通	120	4	△	△	○		○		○
○						2通	120	4	△	△	○		○		○
合計							2460	82							
内、実務経験のある教員による授業科目の時間数、単位数（組し、授業科目を『選択』『資格取得』を除く）							1725	57.5							

卒業要件及び履修方法	授業期間等
各学期毎に履修した科目について定期試験を実施する。定期試験において合格すると単位認定される。必修科目は全て、選択必修科目は年次ごとに所定の単位時間以上認定され、1年次では1,230単位時間以上、2年次では1,230単位時間以上（2年間で2,460単位時間以上）認定されることが卒業要件となる。	1学年の学期区分 2期 1学期の授業期間 15週

●教育課程編成委員会

<花き生産コース、グリーンコーディネートコース 分科会>

氏名	所属	任期	構成
田澤 信二	(一社) 農業電化協会 代表理事 植物工場普及協会 名誉会長	R5. 4. 1. ~ R7. 3. 31.	①
武藤 宏幸	埼玉県花き園芸組合連合会 会長	R6. 4. 1. ~ R8. 3. 31.	①
中村 直道	鴻巣花き(株) 代表取締役社長	R6. 4. 1. ~ R8. 3. 31.	③
折笠 一仁	おりかさ園芸 代表	R6. 4. 1. ~ R8. 3. 31.	③
伊東 政信	テクノ・ホルティ園芸専門学校 校長		—
村井 千里	同 名誉校長、教授		—
古谷 民子	同 教務部長		—
萩原 文雄	同 花き生産コース コース長、実習農場 農場長		—
伊藤 弘充	同 グリーンコーディネートコース コース長 実習農場 農場長代理		—

<野菜生産コース 分科会>

氏名	所属	任期	構成
田澤 信二	(一社) 農業電化協会 代表理事 植物工場普及協会 名誉会長	R5. 4. 1. ~ R7. 3. 31.	①
金沢 充	富士食品工業(株) 農産部長	R5. 4. 1. ~ R7. 3. 31.	③
伊東 政信	テクノ・ホルティ園芸専門学校 校長		—
村井 千里	同 名誉校長、教授		—
古谷 民子	同 教務部長		—
齋藤 仁	同 野菜生産コース コース長		—
湯本 達夫	同 野菜生産コース 教授		—
萩原 文雄	同 花き生産コース コース長、実習農場 農場長		—

<フラワーコーディネーターコース 分科会>

氏名	所属	任期	構成
立川 瞳	(一社) 全国技能士会連合会 理事 (一社) 埼玉県技能士会連合会 会長 埼玉県職業能力開発協会 理事・審議員 埼玉県フラワー装飾技能士会 前会長	R5. 4. 1. ~ R7. 3. 31.	①
向江 正智	株式会社 日比谷花壇 人事部副部長	R5. 4. 1. ~ R7. 3. 31.	③
伊東 政信	テクノ・ホルティ園芸専門学校 校長		—
古谷 民子	同 教務部長		—
柿沼 真吾	同 フラワーコーディネーターコース コース長		—
橋詰 保奈美	同 フラワーコーディネーターコース 主任		—

<造園コース 分科会>

氏名	所属	任期	構成
高橋 康夫	(一社) 日本庭園協会 相談役 (公財) 東京都公園協会 公園事業部 花と緑の市民カレッジ 事務局 元事務局長	R5. 4. 1. ~ R7. 3. 31.	①
由比 誠一郎	(株) 誠和造園 代表取締役 (一社) 日本庭園協会 東京都支部 委員	R5. 4. 1. ~ R7. 3. 31.	③
中山 秀一	(株) 水庭農園 環境技術部 部長 樹木医	R5. 4. 1. ~ R7. 3. 31.	③
伊東 政信	テクノ・ホルティ園芸専門学校 校長		—
古谷 民子	同 教務部長		—
細井 薫	同 造園コース 副コース長		—
布施 浩一	同 造園コース 主任		—

●進級・卒業の要件等（成績評価基準、卒業・修了の認定基準等）

- ① 1コマ=90分を半期15週で完結する授業を1単位とする
 - ② 進級・卒業のためには、各コースで定める単位を修得することが必要である
 - ③ 成績は、前期末と後期末の定期試験（筆答、口答、レポート、実技）の結果に加えて、出席状況や学習態度等を加味して評価する
 - ④ 成績評価で59点以下のものは評定が不可、単位は不認定となる
- ※ 定期試験の結果が60点に満たない場合は再試験となる
- ※ 出席時数が、各科目の授業時間数の3分の2に満たない場合は、定期試験を受験するために補講を受けなければならない
- ※ 年次毎に後期末の評価が終了した時点で10単位以上の不認定科目がある場合は留年もしくは卒業延期となる

評価	100～80点	79～70点	69～60点	59点以下
評定	優	良	可	不可
判定	合格			不合格
単位	認定			不認定

●学習の成果として取得を目指す資格と合格等の実績

資格名	級	令和5年度			令和4年度		
		受検者数	合格者数	内・優秀賞	受験者数	合格者数	内・優秀賞
園芸装飾技能士	2級	7名	7名		18名	14名	
	3級	32名	31名	7名	25名	24名	6名
造園技能士	2級	8名	6名	1名	7名	5名	
	3級	7名	6名	2名	8名	6名	
フラワー装飾技能士	2級	14名	14名		20名	19名	
	3級	14名	14名		10名	10名	
商品装飾技能士	3級	3名	3名	1名	3名	3名	2名
日本農業技術検定	2級	18名	10名	—	25名	13名	—
	3級	12名	10名	—	12名	10名	—
リテールマーケティング（販売士）	3級	—	—	—	—	—	—
色彩検定	2級	1名	1名	—	5名	2名	—
	3級	18名	11名	—	7名	5名	—
土壌医検定	3級	4名	2名	—	7名	3名	—
POP 広告クリエイター	—	17名	17名	—	25名	25名	—

・技能講習などにより取得を目指すもしくは取得できる資格

グリーンアドバイザー／グリーンマスター／小原流本科／大型特殊自動車免許（農耕車限定）
玉掛技能者／小型移動式クレーン運転技能者／危険物取扱者 他

●卒業生数、卒業後の進路（進学者数・主な進学先、就職者数・主な就職先）

コース・専攻	令和5年度				令和4年度			
	卒業生	就職者	未定者	他業種 進学等	卒業生	就職者	未定者	他業種 進学等
花き生産コース	5名	4名	—	1名	5名	2名	1名	2名
野菜生産コース	14名	13名	—	1名	6名	5名	—	1名
グリーンコーディネートコース	10名	9名	—	1名	9名	6名	3名	—
フラワーコーディネートコース	18名	16名	2名	—	14名	14名	—	—
造園コース	9名	7名	—	2名	7名	5名	1名	1名

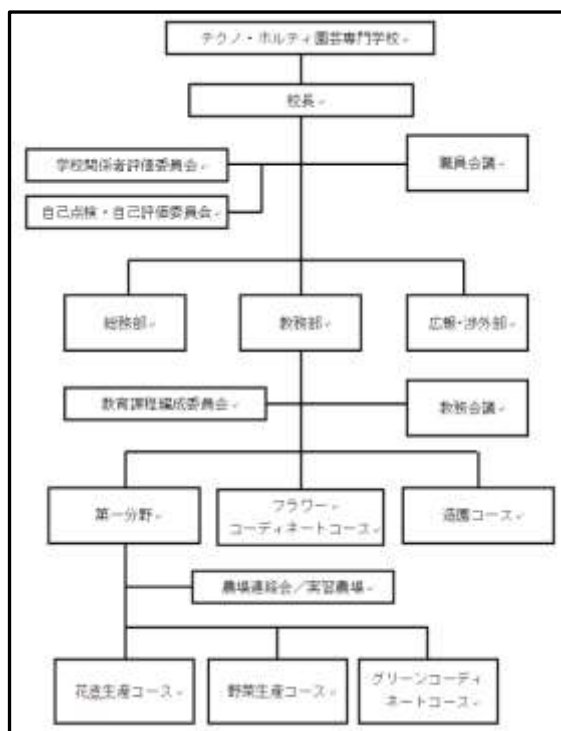
<令和5年度卒業生の主な就職先>

(株)中セキ関東甲信越、富士ミネラルファーム(株)、ユアサ園芸、Iring(株)、(株)鈴勝ファーム、(株)八廣園、(有)フルーツ＆フラワーせきね、(有)フローラ黒田園芸、ベジタベル、(株)ぼくらの農園、(株)ポタジェガーデン、(株)矢口造園、(有)吉田園芸、(株)北本グリーンセンター、(有)椎名洋ラン園、(株)オザキフラワーパーク、(株)ガーデニア、(株)神田造園、(株)京橋花き、(株)グリーンワイズ、(有)四季の企画社、(株)SNAZZY CONCEPTION ソーセリードレッシング、(株)テイクアンドギヴ・ニーズ、(株)日植ガーデン、(株)フレッシュド、(株)ユー花園、(株)リベルテ、藤造園建設(株)、(株)西野造園、(株)花工房、白ハト食品(株)、他

③ 教職員

●教職員数と組織

区 分	専任	非常勤 嘱託等	非常勤	計
校長	1	—	—	1
副校長	—	—	—	—
教員	11	2	—	13
助手	—	—	—	—
講師	—	—	50	50
事務職員	3	—	—	3
その他職員	—	—	7	7



●教職員の専門性

区分	主な担当科目、授業内容	専門性 有資格・業界との関係等
専任	園芸流通	学校長
専任(嘱託)	園芸流通	広報・渉外担当
専任	ビジネスマナー	教務部長、リテールマーケティング(販売士)1級、色彩検定1級、カラーコーディネーター1級、グリーンアドバイザー、ジョブカード作成アドバイザー
非常勤嘱託	花き生産技術	名誉校長、元埼玉県園芸試験場長、園芸文化賞受賞著作「切花栽培 技術マニュアル」ほか多数
専任	園芸実習、花き生産技術	花き生産コース長、農場長、花き生産者
専任(嘱託)	野菜生産実習	野菜生産コース長
非常勤嘱託	野菜生産実習	元埼玉県農業大学校勤務
非常勤嘱託	野菜生産各論	元埼玉県東松山農林振興センター 農業支援部長、農業改良普及員
専任	グリーンコーディネート、卒業研究	グリーンコーディネートコース長、教務次長、1級園芸装飾技能士、職業訓練指導員(園芸科)、元園芸生産社勤務
専任	フラワーデザイン、フラワービジネス	フラワーデザインコース長、教務次長、1級フラワー装飾技能士、職業訓練指導員(フラワー装飾科)、元生花店勤務
専任(嘱託)	造園基礎知識、課題学習	教務次長、造園副コース長、グリーンアドバイザー、福祉住環境コーディネーター2級、屋上緑化コーディネーター、自然観察指導員、ガーデンデザイナー
専任	フラワーデザイン、フラワービジネス	教務主任、フラワーコーディネートコース担当、2級フラワー装飾技能士、元生花店勤務
専任	造園施工	教務主任、1級造園技能士、元造園会社勤務
専任	園芸実習	教務係、東京農業大学卒業

非常勤講師 または委託	園芸流通	(公社) 園芸文化協会 事務局長
〃	園芸流通	(一社) 日本庭園協会 相談役
〃	園芸流通	(株) 誠文堂新光社月刊フローリスト 編集長
〃	園芸流通	トキタ種苗(株) 勤務
〃	園芸流通	(株) 花弘 営業企画室 ヒューマンリソース担当課長
〃	園芸流通	(株) 京橋花き 専務取締役
〃	園芸流通	さいたまヨーロッパ野菜研究会 事務局
〃	園芸流通	パナプラス(株) 代表取締役
〃	園芸流通	Koguchi plants 代表
〃	園芸流通	花き生産や園芸教室の指導に従事
〃	園芸流通	(公社) 園芸文化協会 元事務局長
〃	園芸文化論	コンスタンス・スプライ・フลาวースクール サーティファイ ケイトコース修了
〃	分類・形態学	(株) フラワーオークションジャパン 顧問
〃	病理害虫学、病理害虫各論	住友化学園芸(株)、元普及部長
〃	土壌肥料学、(資格) 日本農業技術検定	首都圏土壌医の会 会長
〃	花と緑の商品知識、フィールドワーク	(公財) 埼玉県生態系保護協会 会員、 ホームセンター 元園芸講座講師
〃	育種・繁殖	日本たばこ産業(株) 元主任研究員
〃	花き輸出入概論	クリザール・ジャパン(株) 副会長
〃	野菜生産各論	元埼玉県東松山農林振興センター 農業支援部長、農業改良 普及員
〃	食品加工論、加工実習	野菜ソムリエプロ
〃	植物販売技術	坂野ガーデンにてバラの育種に従事
〃	植物販売技術	ガーデン関連会社 勤務
〃	特殊空間緑化	(株) 岩崎電気 勤務
〃	特殊空間緑化	(株) 日植ガーデン 勤務
〃	グリーンコーディネート実践	ガーデン植栽や園芸教室の指導に従事
〃	マーケティング	(有) 河野経営研究所 代表取締役
〃	植物管理技術	ガーデンセンターでの勤務
〃	フラワーデザイン基礎	フラワー装飾技能士1級、職業訓練指導員(フラワー装飾科)
〃	フラワーデザイン	埼玉県技能士連合会 会長、黄綬褒章受勲
〃	フラワーデザイン	(公社) 日本フラワーデザイナー協会 理事長
〃	フラワーデザイン	フラワーデザインスクール秋桜花 代表
〃	フラワーデザイン	はなのみせ花井生花 代表、職業訓練指導員(フラワー装飾科)
〃	フラワーデザイン	(公社) 日本フラワーデザイナー協会 名誉本部講師
〃	フラワーデザイン	(株) SK 花企画 代表取締役
〃	フラワーデザイン	(株) ベル・フルール 代表取締役

〃	フラワーデザイン	(株)ユー花園 チーフデザイナー
〃	フラワーデザイン	ベリーブーケ 代表
〃	ショップビジネス	(株)日比谷花壇 人事部副部長
〃	樹木学	
〃	造園基礎	(有)金子園芸 代表取締役
〃	造園施工	(株)誠和造園 代表取締役
〃	造園管理	特殊空間緑化の施工会社での勤務
〃	造園材料	造園会社 代表
〃	造園設計	造園会社 常務取締役、1級施工管理技士
	デザイン、(資格)商品装飾展示技能士	フリーランス(ショップディスプレイ)、商品装飾展示技能士1級
〃	カラーコーディネート、(資格)色彩検定	色彩検定1級、日本色彩研究所認定色彩指導者
〃	園芸装飾、(資格)園芸装飾技能士	おりかさ園芸 代表
〃	グリーンコーディネート	佐野園芸 代表、黄綬褒章受勲、現代の名工
〃	(資格)フラワー装飾技能士	職業訓練指導員(フラワー装飾科)、(公社)日本フラワーデザイナー協会名誉本部講師
非常勤講師 または委託	(資格)造園	1級造園技能士、1級造園施工管理技士、造園会社経営
〃	(資格)NFD	職業訓練指導員(フラワー装飾科)、(公社)日本フラワーデザイナー協会本部講師
〃	ビジネスマナー (資格)リテールマーケティング	リテールマーケティング(販売士)1級、アップセルビジネス研究所 代表
〃	(資格)POP	日本POPサミット協会副会長、Rプラン 代表
〃	(選択)花木盆栽	日本盆栽教室連盟 師範
〃	(選択)生け花	小原流東京支部幹部
〃	(選択)アロマテラピー	アロマテラピースクール 主宰
〃	(選択)ボタニカルアート	NHK文化センター植物画 講師
〃	(選択)CAD	東京都職業訓練校講師(CAD)、PAD 代表
〃	(選択)写真	カルチャースクールでの講師

●教職員研修

<基本方針>

テクノ・ホルティ園芸専門学校に所属する教職員は常に研鑽を怠らず、学生（もしくは保護者）の夢や希望を叶え、同時に学生に対して社会人・業界人として必要な知識や技能もしくはその素養を与え、さらに関連業界に対して有意な人材を輩出するよう努めなければならない。

<令和5年度の実績>

令和5年度の実績については、新型コロナウイルスの感染対策に留意しながら、前年度よりも研修・視察を増やすことができた。

研修日	研修・視察等の内容	実施団体・場所等
4月13日	公共緑地・都市公園見学	日比谷公園・清澄庭園
4月17日	茶事体験講座	(株)東農園 戸谷香織氏（表千家講師）
4月28日	切り花新品種、主要生産者の情報収集	大田花き市場
4月28日	フューネラル装飾の現状と新技術の視察、習得	(株)フレッシュド
5月1日	フラワーデザイン構成論の研修	(公社)日本フラワーデザイナー協会
5月1日	特殊空間緑化施設・見学	東京駅周辺
6月1日	都内生花店視察	表参道・渋谷周辺
5月15日	ローズガーデン見学	京成バラ園芸(株)
5月19日	ローズガーデンの維持管理状況の視察およびその方法の習得	坂野ガーデン
5月31日～ 6月8日	職業訓練指導員講習受講	埼玉県職業能力開発協会
6月16日	地域活性化の取り組み状況の視察	千年の苑ラベンダー園
6月22日	工場廃熱を利用した施設の維持管理状況の視察	夢の島熱帯植物館
6月24、25日	竹穂垣講習会参加	(一社)日本庭園協会埼玉支部
7月15日	専修学校教員研修会	(一社)埼玉県専修学校各種学校協会
7月21日	完全自動化した施設での切り花栽培技術の習得	(株)赤城 M's ローズ
7月22日	第38回花卉懇談会セミナー（オンライン）	花卉懇談会（東京農業大学）
8月29日	産地見学（アジサイ、ワレモコウ）	片品村
9月1日	産地見学（バラ）	(株)赤城 M's ローズ
9月1日	有機農業実践施設農場視察	霜里農場（小川町）
9月1日	有機農産物の地域内流通・連携視察	とうふ工房わたなべ（小川町）
9月5日	産地見学（ユリ）	(株)百合の滝沢
9月7日	最新品種および新たな取り組みなどの情報収集	大田花き市場
10月6日	洋風ガーデンおよびガーデンセンター見学・視察	ジョイフル本田新店店内エアリスの小さな森公園
10月8、9日	作庭講習会（滝石組・流れ）	(一社)日本造園連合会埼玉支部青年部
10月13日	東京堂見学・実習	(株)東京堂
11月13日	庭園見学	ホテル椿山荘東京 藤田観光工営(株)
11月17日	野菜新品種と栽培資材等の新商品の視察 （トキタ種苗(株)大利根研究農場オープンデー）	トキタ種苗(株)大利根研究農場

11月17日	農産物直売所での出品状況調査	JA 南彩菖蒲グリーンセンター
11月21日	アグリビジネス創出フェアでの情報収集	東京ビッグサイト
12月1日	都市型農園の生産・販売流通の現状の視察	秋田緑花農園
12月1日	都市型園芸店の販売戦略の視察	㈱オザキフラワーパーク
12月8日	販売商品やネット販売についての受講および視察	おぎはら植物園
12月22日	ヒット商品の育種繁殖技術および維持管理方法の視察	サトウ園芸
12月22日	郊外型園芸店の販売商品および販売戦略の視察	フラワーガーデン㈱泉
2月1日	東京堂見学・実習	㈱東京堂
2月5日	先進農業機械の視察	国立研究開発法人農研機構
2月23日	第39回花卉懇談会フォーラム	花卉懇談会（東京農業大学）
3月2、3日	水鉢作成講習会参加	（一社）日本庭園協会埼玉支部

<令和6年度の計画>

講習会やセミナーの受講、各種の展示会における新品種・新商品等の確認などを通じて、学生へ還元できる知識・技術等を習得する。令和6年度は新型コロナウイルスの影響もほぼなくなることから、これまでより積極的に研修への参加に努めたい。

研修予定	研修・視察等の内容	実施団体・場所等
4月	産地見学（バラ）	㈱赤城M'sローズ
4月	切り花新品種、主要生産者の情報収集	大田花き市場
4月	フューネラル装飾(葬儀の花)の現状と新技術の習得・視察	㈱ユー花園
4月	公共緑地・公園視察	(一社)日本庭園協会相談役 高橋康夫氏
5月	産地見学（コショウラン）	(有)おぎの蘭園
5月	鉢物新品種、主要生産者の情報収集	鴻巣花き㈱
5月	1年生国内研修旅行引率	国立科学博物館筑波実験植物園 らぼぽなめがたファーマーズヴィレッジ
5月	企業見学、フラワー業界の現状視察と企業側が求める人材についてのヒアリング	フラワー関連企業
5月	マーケティング戦略の実施状況の視察	㈱グリコ 北本工場
5月	特殊空間緑化施設・見学	東京駅周辺
6月	都内生花店視察	表参道、渋谷周辺
6月	茶事体験講座	㈱東農園 戸谷香織氏（表千家講師）
7月	有機農業実践施設農場視察	霜里農場（小川町）
7月	第39回花卉懇談会セミナー	花卉懇談会（東京農業大学）
8月	産地見学（アジサイ、ワレモコウ）	片品村
8月	安全運転管理者講習	埼玉県公安委員会
9月	最新品種および新たな取り組みなどの情報収集	大田花き市場
10月	東京校見学・実習	㈱東京堂
11月	企業見学、フラワー業界の現状視察と企業側が求める人材についてのヒアリング	フラワー関連企業
11月	野菜新品種と栽培資材等の新商品の視察 （トキタ種苗㈱大利根研究農場オープンデー）	トキタ種苗㈱大利根研究農場
11月	アグリビジネス創出フェアでの情報収集	東京ビッグサイト
11月	公園・庭園視察	(一社)日本庭園協会相談役 高橋康夫氏
1月	産地見学（ユリ）	㈱百合の滝沢
1月	東京校見学・実習	㈱東京堂
2月	第40回花卉懇談会フォーラム	花卉懇談会（東京農業大学）
随時	マネージメント／コーチング／カウンセラー講習	埼玉県職業能力開発協会ほか
随時	園芸店、生産現場、市場の視察	園芸・農業関連企業
随時	生産者や生花店、造園会社との積極的な情報交換	園芸・農業関連企業

④ キャリア教育・実践的職業教育

●キャリア教育、就職支援への取組状況

個々の学生の希望を重視した指導とサポートを実施している。

1年次の前期（コースに所属する前）にクラス担任と面談し、その時点の希望等を確認。

1年次の後期からは、コースに分かれ専任教員と面談を重ねる。

過去の求人・就職企業の状況や卒業生・企業から得た情報を正確に伝え、同時にインターンシップを有効に活用することで、本人の希望とのミスマッチを防ぎ、確実な就職へ結び付けられるように指導している。

また、業界の現状や企業側が求める人材などの理解を深められるように、毎年1年次の2月に企業からの職員派遣を得て就職ガイダンスを行っている。

<令和5年度の実績>

企業名	主な業務内容
小林花卉	カラコエをはじめとした鉢花、花苗の生産
(株)ポタジェガーデン	ハーブ苗の生産、販売
トキタ種苗(株)	野菜の育種や種苗の生産販売、資材の開発・販売
富士食品工業(株)	キャベツなどの大規模野菜生産、もやし、カット野菜の製造
東武緑地(株)	グリーンレンタル・リース、装飾、造園施工・管理
(株)日比谷花壇	フラワーショップ、ブライダル装飾
(株)フレシード	フューネラル装花
(株)オフィスショウ	サッカースタジアムや陸上競技場の芝生管理
第一園芸株式会社	フラワーショップ、ブライダル装飾、造園施工・管理

さらに、ビジネスマナーの授業において応募書類の作成や面接対策をするのみならず、具体的な活動を始める時点で、書類作成・模擬面接・訪問マナーなどを個別に指導している。

●実習・実技等の取組状況

本校では、開校当初より実習や演習に重点を置いて、即戦力たる人材養成を図っている。

このために、企業・団体から協力を得て、インターンシップによる現場の経験や、実践的な講師の派遣を受けることで教育効果を高めている。

【企業との連携によるインターンシップ】

<インターンシップの実施時期（各約2週間）>

- ・1年次 11～12月
- ・2年次 5～6月、11～12月

<インターンシップによる利点>

- ・学校で学んだことが実践できると同時に、学校で学べないもしくは学ばないことを経験できる
～ 社会人として働く練習の機会、社会人に必要な事柄を知る機会を提供できる
- ・将来の職場選択に有効
～ どんな職場があるかを知る機会、失敗が少ない就職活動の基礎を提供できる

<主なインターンシップ企業>

(株)日比谷花壇、(株)ユー花園、第一園芸(株)、(株)花弘、(株)花門フラワーゲート、トキタ種苗(株)、(株)ミヨシ、(株)はこねフローリスト、(株)テイクアンドグヴ・ニーズ、(株)パークコーポレーション
 青山フラワーマーケット、(有)吉田園芸、戸塚園芸、(株)プラネット、(株)ジョイフル本田、
 片倉工業(株)マルベリーガーデン、富士食品工業(株)、(株)足利フラワーリゾート あしかがフラワーパーク、
 東武緑地(株)、西武造園(株)、(有)石正園、(有)麻布植祐、(有)蓮や鈴木造園、植彌加藤造園(株)、(株)曾根造園、
 (株)京都造園 ほか

*これらの企業以外にもインターンシップの際に学生を送り出している

*必ずしも毎年、希望者(実習者)がいるとは限らない

*インターンシップに関する連携の契約書を交わしていない企業も一部掲載している

【企業との連携によって授業を実施】

契約を締結して授業への協力を得ている企業 (【 】内は主な授業科目名)

企 業 名	企 業 概 要 (説明)
有限会社東武フラワー 東武フラワーデザインアカデミー 【フラワーデザイン実践】	埼玉を拠点にして堅実に生花販売やウェディング装飾を行っている企業。 代表は、現代の名工、黄綬褒章を受章。同時に、現在は(一社)全国技能士会連合会理事、(一社)埼玉県技能士会連合会会長などを兼務。精力的に後進の指導を行っている。
株式会社 SK 花企画 【フラワーデザイン実践】	軽井沢を拠点としてホテルウェディングやフラワーショップを運営している企業。代表は長野県・信州の名工、(一社)全国技能士会連合会認定の全技連マイスターを受章。全国のホテル装飾担当者や生花店経営者に精力的に技術指導を行っている。
フラワーデザインスクール 秋桜花 【フラワーデザイン実践】	代表は日本のみならず、中国や韓国など海外においてデモンストレーションやコンテスト出場者の指導を行うと共に、フラワーショップ経営者への技術指導などを精力的に行っている。
株式会社水庭農園 【造園管理】	苗木等の生産からスタートして創業 80 年超。官公庁、民間企業の庭園・公園・緑地・広場などの造園工事を行っている企業。
佐野園芸 【グリーンコーディネート】	埼玉を拠点として関東一円でインドアガーデンの普及に努めている企業。 代表は、現代の名工、黄綬褒章を受章。社員を技能グランプリに出場させるなど後進の指導に熱心のうえ、植物の取扱いや装飾に優れている。
おりかさ園芸 【グリーンコーディネート 実践】	代表は、園芸販売・装飾の企業を経た後に独立。埼玉県インドアグリーン協会教育部長、(一社)日本インドアグリーン協会技能グランプリ競技員であり、植物の生産や取扱い、装飾に優れている。

⑤ 様々な教育活動・教育環境

● 学校行事への取組状況（令和5年度の実績）

令和5年度は5月に新型コロナウイルスの分類が第2類に移行したため、ほぼコロナ禍前の状態に戻すことができた。

<全校的もしくは学年単位での取り組み>

月度	行事	概要
4月	入学式	
5月	母の日販売会	母の日の商品や農場生産物などの販売
6月	鴻巣花き市場見学	流通の要である市場の重要性を理解させる
8月	夏季農場実習	秋～冬の花や野菜の播種、灌水作業、除草・病害虫防除作業など
10月	文花祭	日頃の学習成果を発表する。
2月	卒業・進級作品展	2年間、もしくは1年間の学習成果を発表する。
2月	就職ガイダンス	1年生を対象に各企業の担当者から就職に関する心構え等の講話
3月	卒業式	

<コースによる見学・視察等>

月度	見学先・イベント名など	概要	対象
4月	大田花き市場	国内最大の花き市場の仕組みやセリの状況などを見学	FD
4月	㈱フレッシュド	フューネラルフラワーの装飾技法等を見学・確認	FD
4月	日比谷公園・清澄庭園	(一社)日本庭園協会会長高橋康夫氏の案内による見学	LA
4月	茶事体験講座	庭に携わる者の教養としての茶事体験	LA
4月	北本自然観察公園	フィールドワーク(自然観察)	LA
5月	坂野ガーデン	ナチュラルガーデンの維持管理状況の見学	FC・GC
5月	花園グリーンセンター 花植木流通センター	草花、樹木、盆栽に特化した園芸店の見学	GC
5月	特殊空間緑化施設見学	東京駅周辺施設の見学	GC・LA
5月	(公社)日本フラワーデザイナー協会	フラワーデザインのトレンド学習	FD
5月	京成バラ園芸㈱	ローズガーデンの見学	LA
6月	ラベンダー園、嵐山溪谷	嵐山町運営のラベンダー園と溪谷内の見学	FC・GC
6月	夢の島熱帯植物館 葛西臨海公園	熱帯・温帯植物の植栽、管理技術の見学	FC・GC
6月	㈱グリコ 北本工場	マーケティング戦略の実施状況の確認	FC・VC・GC
6月	都内ショッピングリサーチ	都内生花店見学	FD
6月	国営武蔵丘陵森林公園	フィールドワーク(自然観察)	LA
6月	さきたま緑道夏花壇植栽	(有)三島造園との共同作業による花壇植栽	LA
6月	竹穂垣講習会	(一社)日本庭園協会埼玉支部による竹穂垣技術研修への参加	LA
7月	㈱赤城 M's ローズ	バラの自動制御による溶液栽培の現状の視察	FC
7月	はにわの館	素焼き鉢づくりの技術習得	GC

7月	古代蓮の里	水生植物の生態を学び生育状況の見学	GC
8月	片品村	ピラミッドアジサイ、ワレモコウ産地見学	FD
9月	大田花き市場	セリシステムや最新品種などの情報収集	FC
9月	霜里農場（小川町）	有機農業実践施設農場視察	VC
9月	とうふ工房わたなべ（ときがわ町）	有機農産物地域内流通・連携視察	VC
9月	㈱赤城 M's ローズ	ハウス見学、生産について学ぶ（バラ）	FD
9月	㈱百合の滝沢	ハウス見学、生産について学ぶ（ユリ）	FD
10月	㈱東京堂見学・実習	店舗、ショールームの見学 アーティフィシャルフラワー、ドライフラワーを使用した実習	FD
10月	ジョイフル本田新田店	エアリスの小さな森公園およびガーデンセンターの見学	LA
10月	作庭講習会	（一社）日本造園組合連合会埼玉支部青年部による滝石組・流れの庭作庭講習への参加	LA
11月	㈱キセキ関東甲信越 埼玉事務所	大型特殊免許（農耕者限定）技能講習	VC
11月	埼玉県警察運転免許センター	大型特殊免許（農耕者限定）技能検定	VC
11月	トキタ種苗㈱大根研究農場 オープンデー	野菜の新品種栽培展示の見学	VC
11月	JA 南彩菖蒲グリーンセンター	農産物直売所での出品状況調査	VC
11月	アグリビジネス創出フェア	新技術、資材、機械の見学	VC
11月	荒川大麻生公園	フィールドワーク（自然観察）	LA
11月	ホテル椿山荘東京	（一社）日本庭園協会会長高橋康夫氏および藤田観光工営㈱スタッフの案内による見学	LA
12月	秋田緑花農園	都市型農園の生産・販売流通の見学	FC
12月	㈱オザキフラワーパーク	都市型園芸店の販売戦略の視察	FC
12月	おぎはら植物園	販売商品およびネット販売についての現状視察	FC
12月	サトウ園芸	パンジー・ビオラの品種改良技術についての現状視察	FC
1月	国立研究開発法人農研機構	先進農業機械の視察、農作業の安全の講義	FC・VC
1月	エアリスの小さな森公園 （ジョイフル本田新田店内）	イングリッシュガーデンの概要と見学	GC
1月	㈱さいたま園芸市場 卸売部	園芸資材の販売状況の見学と仕入	GC
2月	㈱東京堂見学・実習	店舗、ショールームの見学 アーティフィシャルフラワー、ドライフラワーを使用した実習	FD
3月	水鉢作成講習	（一社）日本庭園協会埼玉支部による石材からの水鉢作成講習	LA

表の「対象」に記載した記号の説明

FC：花き生産コース

VC：野菜生産コース

GC：グリーンコーディネートコース

FD：フラワーコーディネートコース

LA：造園コース

（以降に記載の表においても同様）

<コースによる学習成果の発表等>

月度	イベント・施設名など	概 要	対象
9月	岩鞍リゾートホテル	館内のフラワー装飾	FD
11月	技能五輪全国大会	フラワー装飾部門の競技会	FD
1月	行田市商工センター会議室	ブライダルフラワー装飾の実践	FD
2月	卒業・進級作品展	フラワーデザイン競技会（テクノ・ホルティカップ）	FD
3月	春期農場実習	農場植物の繁殖・管理作業	FC・VC

<地域との連携によるコースの活動>

月度	施設・行事名など	概 要	対象
12月	特別養護老人ホーム 川里苑	クリスマス・フラワー装飾	FD
12月	古代蓮の里会館（行田市産業・文化・スポーツいきいき財団）	クリスマス・室内園芸装飾	GC
12月	埼玉県	小学生対象のフラワーデザイン教室：埼玉県民生活部青少年課	FD
3月	特別養護老人ホーム おきな	花壇植栽	FC
通年	花手水	毎月2週間、埼玉郵便局、前玉神社にて花手水を作成	FD
通年	ホームセンター	農場生産野菜の販売：カインズホーム	VC

⑥ 学生の生活支援

●学生支援への取組状況

各コースの担当教員が座学や実習などを通じて個々の学生の出席状況や学習意欲などの把握に努めている。同時に、教務担当者が非常勤講師とのやり取りなどによって同様の情報を把握している。これらの情報は、少人数制の利点を生かして教職員間で共有し、同時に定例の教務会議で対策などの意見交換を行っている。

この際、状況によってはコース担当教員から保護者へ連絡し、保護者も交えた面談を実施。学習への取り組み姿勢の更生、不登校・退学の防止に結び付けている。また、保護者からの相談については随時応じることとして、保護者に対するケアも行えるように対応している。

⑦ 学生納付金・就学支援

● 学生納付金の取扱い（令和5年度入学生、金額、納入時期等）

学費（各コース共通）

	1年次			2年次		
	納入方法・期日			納入方法・期日		
	一括納入	分割納入		一括納入	分割納入	
		第1回納入	第2回納入		第1回納入	第2回納入
	合格通知受領から2週間以内	合格通知受領から2週間以内	入学前の3月31日 (1年次の7月15日※)	1年次 (2年次直前)の3月31日	1年次 (2年次直前)の3月31日	2年次の7月15日
入学金	100,000円	100,000円	—	—	—	—
授業料	950,000円	550,000円	400,000円	950,000円	550,000円	400,000円
実験・実習料	100,000円	—	100,000円	100,000円	—	100,000円
合計	1,050,000円	1,150,000円		1,150,000円	1,150,000円	

*入学前の3月31日までに入学辞退を申し出た場合は、納入済みの学費の内、入学金を除いた授業料・実験実習料を返還する。

※分割納入・第2回納入の期日は「分納願」を提出した場合は、7月15日に変更する。

諸費用（教材費・教具費・花材費等）

学年	納入時期	花き生産コース	野菜生産コース	グリーン コーディネート コース	フラワー コーディネート コース	造園コース
1年次	5月	150,000円	150,000円	150,000円	220,000円	180,000円
	9月	70,000円	70,000円	70,000円	170,000円	70,000円
	計	220,000円	220,000円	220,000円	390,000円	250,000円
2年次	5月	100,000円	100,000円	100,000円	320,000円	90,000円
	9月	30,000円	30,000円	30,000円	60,000円	60,000円
	計	130,000円	130,000円	130,000円	380,000円	150,000円

*各コースで徴収している金額のおおよその平均額を表示している。（参考金額としてご覧ください。）

*それぞれ、必修科目に加えて、選択科目や資格取得科目の教材費等も含めている。

*資格の検定料などは、個々の受検資格によって異なり、別途実施団体宛に実費を納入しなければならない。

●活用できる経済的支援措置の内容等（令和6年度入学生、奨学金、授業料減免等）

詳しくは、学生募集要項に記載。（2年進級時に適用する「給費生制度」は学生生活の手引きに記載）

<学園独自の制度>

◇特別奨学金（入学時に適用）

奨学区分		給付額	給付条件
資格取得	A	30,000 円	園芸装飾技能士2級、フラワー装飾技能士2級、造園技能士2級、商品装飾展示技能士2級、日本農業技術検定1級、測量士補、リテールマーケティング(販売士)1級、NFD(日本フラワーデザイナー協会)フラワーデザイナー2級、カラーコーディネーターアドバンスクラス、色彩検定1級、簿記実務検定1級(全商)、ビジネス文書実務検定1級(全商)、FFJ(日本学校農業クラブ連盟)・県(都・府)連会長職
	B	10,000 円	園芸装飾技能士3級、フラワー装飾技能士3級、造園技能士3級、商品装飾展示技能士3級、FFJ(日本学校農業クラブ連盟)検定特級、グリーンアドバイザー、NFD(日本フラワーデザイナー協会)フラワーデザイナー3級、リテールマーケティング(販売士)2級、カラーコーディネータースタンダードクラス、色彩検定2級、日本農業技術検定2級、簿記実務検定2級(全商)、ビジネス文書実務検定2級(全商)、情報処理検定2級(全商)、ビジネスコミュニケーション検定(全商)
全国大会	入賞	30,000 円	技能五輪全国大会入賞(フラワー装飾部門、造園部門) 技能グランプリ入賞(園芸装飾部門、フラワー装飾部門、 FFJ(日本学校農業クラブ連盟)主催の各種競技会において全国大会入賞
	出場	10,000 円	技能五輪全国大会出場(フラワー装飾部門、造園部門) 技能グランプリ出場(園芸装飾部門、フラワー装飾部門) FFJ(日本学校農業クラブ連盟)主催の各種競技会において全国大会出場
総合型 選抜入試 (A0入試) 事前学習	レポート 評価	50,000 円	6月エントリー者で、毎月のレポート評価が80点以上
		40,000 円	7月エントリー者で、毎月のレポート評価が80点以上
		30,000 円	8月エントリー者で、毎月のレポート評価が80点以上
		20,000 円	9月エントリー者で、毎月のレポート評価が80点以上
	園芸 テスト	50,000 円	テスト結果が91~100点
		30,000 円	テスト結果が81~90点

*該当するものが複数ある場合は、その合算金額を給付する

(ただし、同一資格の上位級を取得している場合の低位級、同一大会で入賞した場合の「出場」は対象外)

◇卒業生紹介制度（入学時に適用）

- ① 兄弟姉妹、保護者が本学の在校生・卒業生の場合：入学金相当額 100,000 円を奨学金として給付する
- ② 本学卒業生の紹介により入学した場合：50,000 円を奨学金として給付する

◇農場奨学生制度（入学年度のみに適用）

入学後に年間 50 日間の実習農場管理業務全般を行える方に 250,000 円を奨学金として給付する

(事前に面接を行い、採用の可否を決定する) *テクノ・ホルティ園芸専門学校(埼玉校) 希望者

◇給費生制度（2年進級時に適用）

人物・学業共に優秀で目的意識の確かなものに対して、経済的な負担を軽減するために奨学金を給付する「給費生制度」を設けている。

ただし、給付希望する場合は別途試験（専門科目、一般常識）を受け、認定されなければならない。

給付金額　　A 認定 50 万円、B 認定 25 万円、C 認定 10 万円、D 認定 5 万円

<公的な奨学金、給付金など>

◇新規就農促進研修支援事業：農林水産省・全国農業会議所

次世代を担う農業者となることを志向する45歳未満の者に対して、就農前の研修を後押しする資金が交付される制度

- ・対象学生　　花き生産コース／野菜生産コース
- ・交付決定　　事前に研修計画等を作成し、担当官(外部)との面接に通ることが必要
- ・交付金額　　最大 150 万円／年
- ・その他　　　一定の条件を満たせば返還不要

*詳しくは、農林水産省のホームページを参照

http://www.maff.go.jp/j/new_farmer/n_syunou/roudou.html

◇日本学生支援機構の奨学金

学業成績が優秀で、かつ経済的な理由から学費の支払いが困難な者に対して、選考のうえ奨学金が貸与される制度（卒業後に返還が必要）

- ・第一種奨学金（無利子）　　・第二種奨学金（有利子）　　・入学時特別増額貸与奨学金（有利子）

また、給付型（返還不要）の制度も設けられている

*いずれも必要な事務作業等は学内で指導する

*詳しくは、日本学生支援機構のホームページを参照 <https://www.jasso.go.jp/>

◇高等教育の修学支援新制度

住民税非課税世帯およびそれに準ずる世帯の学生が対象で、世帯収入などにより判定される適用区分によって、入学金および授業料が減免される他、日本学生支援機構の給付型奨学金も支給される制度

*いずれも必要な事務作業等は学内で指導する

*詳しくは、文部科学省ホームページ「高等教育の修学支援新制度」を参照

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/hutankeigen/index.htm

その他、上記を含め詳しくは募集要項および関係する組織・団体のホームページを参照のこと

⑧ 学校の財務

- 資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表は、情報公開ページを参照してください。

⑨ 学校評価

- 自己評価、学校関係者評価を踏まえた改善方策については、情報公開ページを参照してください。

⑩ その他

●学則（令和5年度）

シタノ・ホルテイ国際専門学校学則

第1章 総 則

(目 的)

第1条 本校は、学校教育法及び私立学校法の規定に基づき、国際に関する専門技術及び理論を習得させ、あわせて一般教養の向上を図ることを目的とする。

(名 称)

第2条 本校は、シタノ・ホルテイ国際専門学校という。

(位 置)

第3条 本校は、埼玉県行田市大字城ヶ丘東通4-7-8番1に置く。

第2章 課程及び学科、修業年限、定員並びに休業日等

(課程、学科、修業年限並びに定員等)

第4条 本校の課程、学科及び修業年限並びに定員は次のとおりとする。

課程名	学 科 名	修業年限	入学定員	学科定員	総 定 員	備 考
専門課程	国際1類学科	2年	50名	100名	100名	

2. 本校の預科は、次のとおりとする。

科 名	修業期間	総 定 員	備 考
学 文 科	1年	80名	

(学年及び学期)

第5条 本校の学年は、4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

2. 専門課程の学期は次のとおりとする。

旧 期 4月1日から9月30日まで

新 期 10月1日から3月31日まで

(休業日)

第6条 本校の休業日は次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律で休日とされる日

(3) 夏季休業日 8月 1日から8月31日まで

(4) 冬季休業日 12月15日から1月14日まで

(5) 春季休業日 3月26日から4月 7日まで

(6) 開校記念日 10月 1日

(7) 埼玉県民の日 11月14日

第3章 教育課程及び授業時数及び職員組織

(教育課程及び授業時数)

第7条 本校の教育課程及び卒業に必要な総授業時数は、別表1-1から1-5のとおりとする。

(授業及び給養の時刻)

第8条 本校の授業及び給養の時刻は、次のとおりとする。

(1) 専門課程は、9時から17時までとする。

(2) 別科は、9時から17時までとする。

(職員組織)

第9条 本校に、次の教職員を置く。

(1) 校 長 1名

(2) 教 員 6名以上

(3) 事務職員 1名以上

2. 校長は、教員かつ校長となり、原副職員を監督する。

第4章 入学、休学、退学並びに学位の認定、卒業及び学位

(入学資格)

第10条 本校の入学資格は、次のとおりとする。

専門課程は、高等学校もしくはこれに準ずる学校を卒業した者又は文部科学大臣の定めるところによりこれに準ずる学力があると認められた者とする。

(入学時期)

第11条 本校の入学時期は、次のとおりとする。

専門課程は毎年4月とする。

(入学手続)

第12条 本校の入学手続は、次のとおりとする。

(1) 本校に入学しようとする者は、本校の定める入学審査に必要な事項を記載して、書面等に定める入学検定料を添えて所定する期日までに出席しなければならない。

(2) 前号の学級を修了した者に対して選考を行い、校長が入学を許可する。

(3) 本校に入学を許可された者は、入学許可の日から1週間以内に第19条の入学金を納入手続きを完了しなければならない。

(休学及び復学)

第13条 学生が、疾病その他の事由を理由により、10日以上休学する場合は、教務部長及びその事由を記し、校長の許可を受けなければならない。

2. 前項の者が復学しようとする場合は、通知出て復学することができる。

(退 学)

第14条 退学しようとする者は、その事由を記し、校長の許可を受けなければならない。

(学習の評価、単位認定)

第15条 学習の評価は試験により行う。

2. 修了した授業科目の出席時数が授業時数の3分の2以上あり、試験の結果が合格の場合は、当該授業科目の単位を認定する。

3. 卒業に必要な全科目の単位を修得した者については卒業を認定する。

4. 履修方法、学習の評価・認定、単位認定に關し必要な事項は別に定める。

(卒 業)

第16条 本校所定の課程を修了した者には、学習評価のうえ卒業証書（別紙様式）を授与する。

(奨 励)

第17条 成績優秀にして、他の優遇となる者は、これを奨励することができる。

(懲 戒)

第18条 次の各号の一に該当する者には、退学を命ずることがある。

(1) 品行不端で改善の見込みがないと認められる者

(2) 学力的等で成績の見込みがないと認められる者

(3) 正当な理由がなくて出席前でない者

(4) 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

(入学金及び授業料、奨学金等)

第19条 本校の入学金、授業料等は、別表2のとおりとする。

2. 授業料は、出席の有無にかかわらず、所定の期日まで納入しなければならない。但し、事情により分納を認めることもある。

3. 入学前に前納された入学金、授業料、奨励・奨学金は、入学年の4月1日以降は返還しない。但し、入学年の3月31日までに入学金返還を申し出た場合は、原則として入学金を除く多額を返還する。

4. 本校では、学習者の経済的な負担軽減を図るために奨励金の奨学金制度・学習経費給付制度を設けることとする。

(奨励金)

第20条 奨励金に関する事項は、校長が別に規則で定める。

(健康診断)

第21条 健康診断は、毎年1回、別に定めるところにより実施する。

附 則

この学則は、昭和62年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成元年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成2年4月1日から施行する。

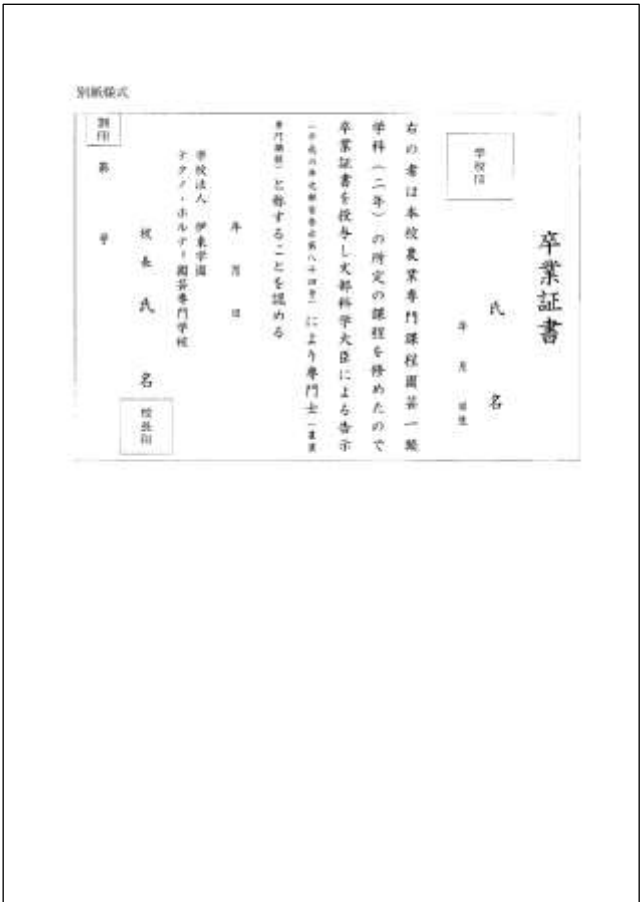
附 則

この学則は、平成4年4月1日から施行する。

但し、平成1年3月31日現在在学の子については、在学期間の限りとする。

期 別	この学期は、平成6年4月1日から施行する。 但し、平成5年3月31日現在在学のものについては、なお従前のとおりとする。
期 別	この学期は、平成7年4月1日から施行する。 但し、平成7年3月31日現在在学のものについては、なお従前のとおりとする。
期 別	この学期は、平成9年4月1日から施行する。 但し、平成9年3月31日現在在学のものについては、なお従前のとおりとする。
期 別	この学期は、平成13年4月1日から施行する。 但し、平成13年3月31日現在在学のものについては、なお従前のとおりとする。 但し、第4期要項改定印刷様式については、平成13年3月31日より施行する。
期 別	この学期は、平成15年4月1日から施行する。 但し、平成15年3月31日現在在学のものについては、なお従前のとおりとする。
期 別	この学期は、平成18年7月1日から施行する。
期 別	この学期は、平成21年4月1日から施行する。 但し、平成21年3月31日現在在学のものについては、なお従前のとおりとする。
期 別	この学期は、平成22年4月1日から施行する。 但し、平成22年3月31日現在在学のものについては、なお従前のとおりとする。
期 別	この学期は、平成23年4月1日から施行する。 但し、平成23年3月31日現在在学のものについては、なお従前のとおりとする。
期 別	この学期は、平成24年4月1日から施行する。 但し、平成24年3月31日現在在学のものについては、なお従前のとおりとする。
期 別	この学期は、平成25年4月1日から施行する。 但し、平成25年3月31日現在在学のものについては、なお従前のとおりとする。

期 別	この学期は、平成31年4月1日から施行する。 但し、平成31年3月31日現在在学のものについては、なお従前のとおりとする。
期 別	この学期は、令和元年4月1日から施行する。 但し、令和元年3月31日現在在学のものについては、なお従前のとおりとする。
期 別	この学期は、令和2年4月1日から施行する。 但し、令和2年3月31日現在在学のものについては、なお従前のとおりとする。



別添1-1 園芸1級学科教育課程
各専攻科コース

科 目	時 数	1年	2年	計
園芸文化論		30		30
花と時の創造知識1		60		60
花と時の創造知識2			30	30
空想・想像力		15		15
分類・整理学論		15		15
土壤学概論		15		15
工業肥料学論		15		15
園芸療法学		15		15
園芸生産学		15		15
園芸法規1		150		150
園芸実習1			30	30
花鑑・鑑賞		30		30
グリーンコーディネーター		30		30
グリーンコーディネーター		30		30
園芸概論		30		30
デザイン		30		30
フラワーデザイン基礎		30		30
フラワーコーディネーター		15		15
造園基礎		30		30
造園基礎2		60		60
造園実習1		60		60
造園実習2			240	240
造園制作1		15		15
造園制作2			30	30
大庭園完成実習1		30		30
大庭園完成実習2			60	60
造園管理1		15		15
造園管理2			60	60
造園管理・造園1		30		30
造園管理・造園2			60	60
造園・造園設備論		30		30
造園機械1		15		15
造園機械2			30	30
造園メンテナンス		30		30
造園メンテナンス		30		30
造園制作1		30		30
造園制作2			30	30
造園実習1		30		30
造園実習2			30	30
造園実習3			30	30
造園実習4			30	30
造園実習5			30	30
造園実習6			30	30
造園実習7			30	30
造園実習8			30	30
造園実習9			30	30
造園実習10			30	30
造園実習11			30	30
造園実習12			30	30
造園実習13			30	30
造園実習14			30	30
造園実習15			30	30
造園実習16			30	30
造園実習17			30	30
造園実習18			30	30
造園実習19			30	30
造園実習20			30	30
造園実習21			30	30
造園実習22			30	30
造園実習23			30	30
造園実習24			30	30
造園実習25			30	30
造園実習26			30	30
造園実習27			30	30
造園実習28			30	30
造園実習29			30	30
造園実習30			30	30
造園実習31			30	30
造園実習32			30	30
造園実習33			30	30
造園実習34			30	30
造園実習35			30	30
造園実習36			30	30
造園実習37			30	30
造園実習38			30	30
造園実習39			30	30
造園実習40			30	30
造園実習41			30	30
造園実習42			30	30
造園実習43			30	30
造園実習44			30	30
造園実習45			30	30
造園実習46			30	30
造園実習47			30	30
造園実習48			30	30
造園実習49			30	30
造園実習50			30	30
造園実習51			30	30
造園実習52			30	30
造園実習53			30	30
造園実習54			30	30
造園実習55			30	30
造園実習56			30	30
造園実習57			30	30
造園実習58			30	30
造園実習59			30	30
造園実習60			30	30
造園実習61			30	30
造園実習62			30	30
造園実習63			30	30
造園実習64			30	30
造園実習65			30	30
造園実習66			30	30
造園実習67			30	30
造園実習68			30	30
造園実習69			30	30
造園実習70			30	30
造園実習71			30	30
造園実習72			30	30
造園実習73			30	30
造園実習74			30	30
造園実習75			30	30
造園実習76			30	30
造園実習77			30	30
造園実習78			30	30
造園実習79			30	30
造園実習80			30	30
造園実習81			30	30
造園実習82			30	30
造園実習83			30	30
造園実習84			30	30
造園実習85			30	30
造園実習86			30	30
造園実習87			30	30
造園実習88			30	30
造園実習89			30	30
造園実習90			30	30
造園実習91			30	30
造園実習92			30	30
造園実習93			30	30
造園実習94			30	30
造園実習95			30	30
造園実習96			30	30
造園実習97			30	30
造園実習98			30	30
造園実習99			30	30
造園実習100			30	30

※園芸科1級(園芸、造園専攻科)は、小計欄の時間以上の科目を履修することができる。

別表Ⅱ

課 程	専門課程
科	同出1類学科
昼・夜の別	無
入学検定料	20,000円
入 学 金	100,000円
計	120,000円
授業料	950,000円
実験実習料	100,000円
計	1,050,000円

別表Ⅲ

制度名	給付額	備考
特別奨学金制度	10,000円 ～ 50,000円	取得後修業状況やコンテスト出場等の状況などに応じて給付する。
卒業生紹介制度	100,000円 または 50,000円	本学卒業生の親族または、本学卒業生の紹介によって入学した者に給付する。
借付奨学金制度	上掲 200,000円	貸付奨学金の管理委託を行う者に給付する。

以上